

血液透析時の静注剤投与頻度とスタッフのメンタルヘルスの関連

医療法人衆和会 長崎腎病院

○上谷しのぶ 植木秀一 北村志保 熊博和 下田美知子 青柳真生 山中真樹子 丸山祐子 原田孝司
船越 哲

【背景】

血液透析においては、投与経路が容易であるため静注製剤が安易に使用される傾向にあり、この投与頻度がスタッフのストレスとなる懸念もある。

【目的】

月2回製剤であるダルベポエチン(DA)から週3回投与のエポエチン α (EPO)に変更する前後でのスタッフのストレスを比較する。

【対象・方法】

病棟透析室スタッフ20名を対象に、『職業性ストレス簡易調査票』（労働省「作業関連疾患の予防に関する研究班」）を用いて、薬剤変更前後のストレス変化を定量した。

【結果】

両ESA製剤変更前後のスタッフのストレスを比較した結果、仕事量 3.65→3.55、仕事の質 4.00→3.85 とスコアは高い傾向であったが、有意差は認められなかった。「準備作業の時間が削られる」、「注射薬剤の取り違えが不安」、などが聞かれたが管理可能であり、変更前後2ヶ月の注射・投薬に関する事故件数に差はなかった。

【考案】

病棟透析室スタッフにとって、週3回投与製剤は月2回製剤に比べてストレスを増加させる要因とは言えない。